（３）「グローバル英語」について

＜仮　説＞

社会の中の様々な問題を知り、それらを多様な角度から自己の問題としてとらえることによって内容や問題への理解が深まる。またそれによって自己の意見の発信活動への動機が高められ表現力が身に付く。また、様々な媒体を使って英語で世界中の多様な意見を積極的に知ろうとする姿勢が育ち、情報活用力が身に付く。

＜目　的＞

社会の中の様々な問題について、その内容理解を深めるために有効な英文を読んだり、関連資料を見たりした後、お互いの意見を話し合わせ、また問題点を分析・統合させながらライティング活動をさせることによって、論理的に発信する力を身に付けさせる。

＜内　容＞

社会の中の様々な問題について、その背景知識を広げ内容理解を深める英文を読むことにより、その問題に対する諸外国の様々な視点や取組を学び、我が国との共通点や違いを理解する。また、そこから生まれた自己の意見を、ペアワークやグループ活動で交換したり発表したりすることによって、相手の質問や意見に即興で答えたり反論したりする力を身に付ける。さらに、自ら得た知識や情報をもとに、広い視野に立ち、人の意見や立場を尊重し、人と協働しながら問題解決を目指す力の育成を図る。

＜実施方法＞

週１時間、通常は英語科の教員と ALT が２人でティームティーチングの形式で行う。社会の諸問題に関するテキストを読み、背景知識を得たうえで問題意識を持ち、解決に至る方策を考えるきっかけとする。ペアワークなどの活動を通じて、コミュニケーション能力を高めるとともに、最終的に広い視野に立ち、人の意見や立場を尊重して、人と協働しながら問題解決を目指す力の育成を図る。

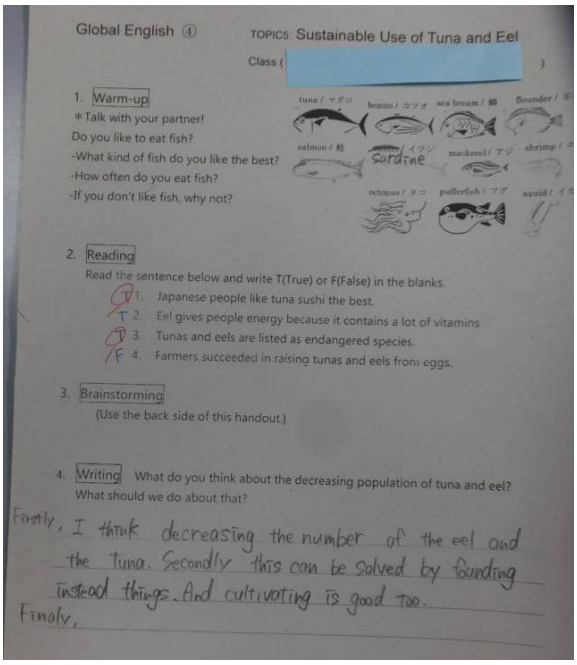
＜授業の実施状況＞

月	時間	言語活動	テーマ	学習内容
4	1		ガイダンス	科目の目標、学習の留意点、評価方法などについて理解する。
	3	ペアによる意見交換	「サブカルチャーとカルチャーについて」	・関連英文を読み、背景知識を深める。 ・サブカルチャーとカルチャーの違いについてその例とともに英語で考える。 ・マインドマッピングを使って自分の考えを整理する。 ・「日本の高校生にとってカルチャー

				の方がサブカルチャーより価値のあるものである」という命題に対する賛否を考え、ペアワークやクラス全体で話し合う。
5	3		「ロボット工学について」	・関連英文を読み、背景知識を深める。 ・現在すでに使われているロボットについて、その目的と使用法を英語で表現させる。 ・マインドマッピングを使って自分の考えを整理する。 ・日本で将来ロボットがより多くの分野で使われることについての功罪について考え、ペアワークやクラス全体で話し合う。
6 7 9	3	・ペアによる意見交換 ・クラス全体での話し合い	「コンビニエンスストアの２４時間営業は必要か」	・関連英文を読み、背景知識を深める。 ・日本と諸外国でのコンビニエンスストアの営業時間や従業員の労働のあり方の違いについて知る。 ・マインドマッピングを使って自分の考えを整理する。 ・「日本で今後便利さの追求よりもワークライフバランスの方により重点がおかれるようになる」という命題に対する賛否を考え、ペアワークやクラス全体で話し合う。 ・話しあった内容をふまえてライティングで自分の考えをまとめる。 （提出されたものをＡＬＴとＪＴＥで評価）
10	3	・ペアによる意見交換 ・クラス全体での話し合い	「海洋資源の保護について」	・関連英文を読み、背景知識を深める。 ・水産物の乱獲とそれから生じている環境問題について知っていることを共有する。 ・マインドマッピングを使って自分の考えを整理する。 ・海洋資源を保護するために自分たちにどんなことができるかペアワークやクラス全体で話し合う。
	3	・ペアによる意見交換 ・クラス全体での話し合い	「デジタルディトックスの必要性について」	・関連英文を読み、背景知識を深める。 ・SNS 等のデジタルディバイスの私たちの生活に与える影響について、マインドマッピングを使って自分の考えを整理する。 ・デジタルディバイスの使用をある一

11				定期間控えるデジタルディトックスの取り組みが自分にとって必要であるかどうか、ペアワークやクラス全体で話し合う。
12 1	3	・ペアによる意見交換 ・クラス全体での話し合い	「和食文化について」	・説得力のある意見を発信するために必要な条件を考え、それを組み立てるのに必要な３つのステップについて知る。（ハンドアウト例参照） ・話しあった内容をもとに３ステップをふまえてライティングで自分の考えをまとめる。（タイムドライティングテスト実施、実施後ＡＬＴとＪＴＥで評価） ・関連英文を読み、背景知識を深める。 ・外国に起源を持っている料理が、日本に伝わった後どのように変化しているか話し合う。 ・日本に起源を持っている料理が外国で異なる形で伝わっていることの是非について話し合う。
2	3	・スピーチコンテスト原稿作成	英文の要約文の作製、それに関連する自分の経験や意見の形成	・１、２学期に読んだコミュニケーション英語Ｉのテキストの英文のうち、最も印象に残った単元を選び、それを自分自身の経験や意見と関連付けて、スピーチの原稿を作成する。（ハンドアウト例参照） ・スピーチの内容を聴衆に効果的に伝える方法を知る。
	3	・スピーチコンテストクラス予選実施 ・スピーチコンテスト本選実施		・ひとり１分程度の長さでスピーチを行う。（ＡＬＴとＪＴＥで評価） ・第１学年生徒全員が集い、各クラスで最も優秀な生徒９人によるスピーチを聞く。 ・３学期に読んだコミュニケーション英語Ｉのテキストの英文のうち、印象に残った単元を選び、それを自分自身の経験や意見と関連付けてライティングを行う。（タイムドライティングテスト実施、実施後ＡＬＴとＪＴＥで評価）

＜教材と写真＞



Global English ④ TOPIC5: Sustainable Use of Tuna and Eel

Class ( )

1. Warm-up

＊Talk with your partner!

Do you like to eat fish?

-What kind of fish do you like the best?

-How often do you eat fish?

-If you don't like fish, why not?

2. Reading

Read the sentence below and write T(True) or F(False) in the blanks.

T 1. Japanese people like tuna sushi the best.

T 2. Eel gives people energy because it contains a lot of vitamins

T 3. Tunas and eels are listed as endangered species.

F 4. Farmers succeeded in raising tunas and eels from eggs.

3. Brainstorming

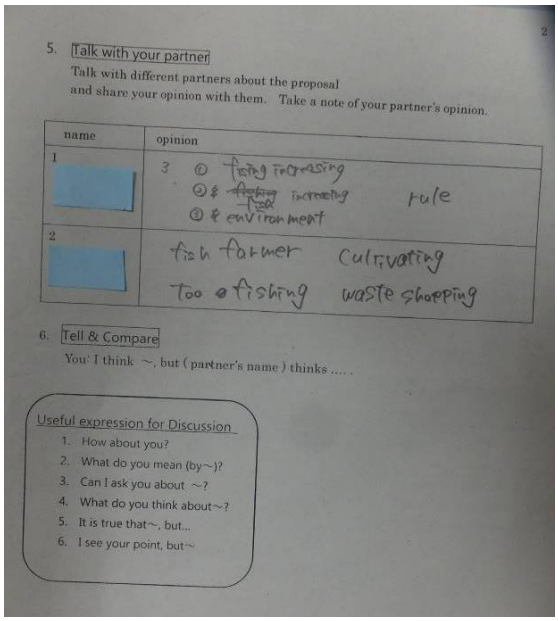
(Use the back side of this handout.)

4. Writing What do you think about the decreasing population of tuna and eel? What should we do about that?

Firstly, I think decreasing the number of the eel and the tuna. Secondly this can be solved by founding instead things. And cultivating is good too.

Finaly,

海洋資源保護のワークシート



5. Talk with your partner

Talk with different partners about the proposal and share your opinion with them. Take a note of your partner's opinion.

name	opinion
1	3 ① fishing increasing ② & ~~fishing~~ eel increasing ③ & environment rule
2	fish farmer cultivating Too ● fishing waste shopping

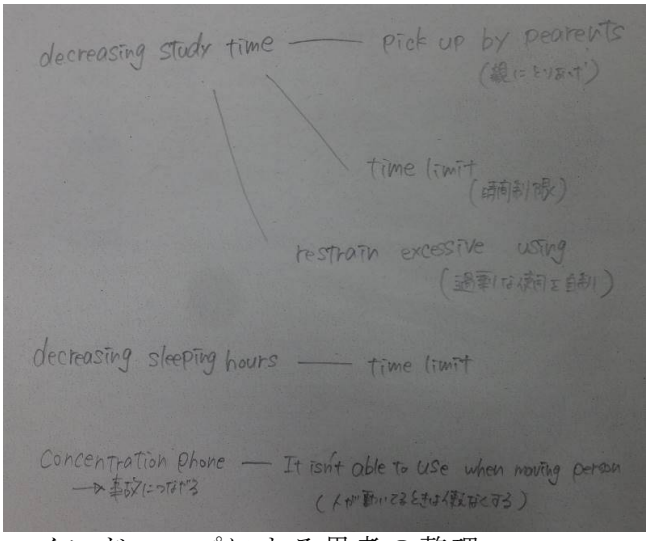
6. Tell & Compare

You: I think ～, but (partner's name) thinks .....

Useful expression for Discussion

1. How about you?
2. What do you mean (by～)?
3. Can I ask you about ～?
4. What do you think about～?
5. It is true that～, but...
6. I see your point, but～

相手の意見を聞き取る際のメモ



decreasing study time —— pick up by pearents (親にとりあげ)

time limit (時間制限)

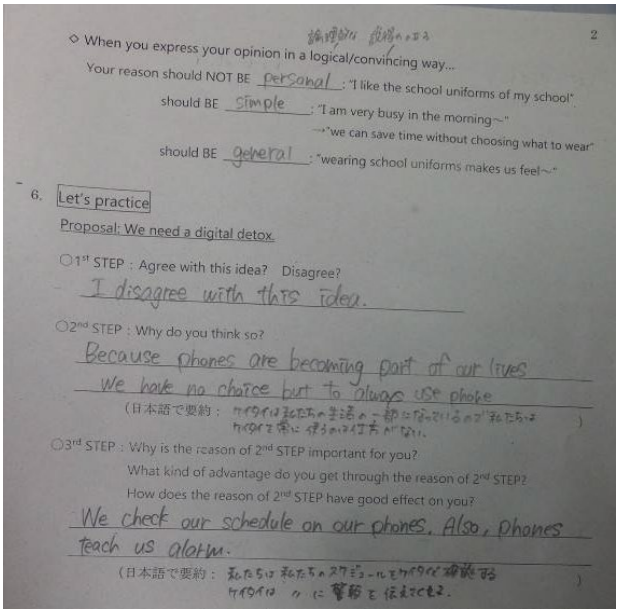
restrain excessive using (過剰な使用を自制)

decreasing sleeping hours —— time limit

Concentration phone —— It isn't able to use when moving person (人が動いているときは使えなくする)

→事故につながる

マインドマップによる思考の整理



◇ When you express your opinion in a logical/convincing way...

Your reason should NOT BE personal : "I like the school uniforms of my school"

should BE simple : "I am very busy in the morning～"

→"we can save time without choosing what to wear"

should BE general : "wearing school uniforms makes us feel～"

6. Let's practice

Proposal: We need a digital detox.

○1st STEP : Agree with this idea? Disagree?

I disagree with this idea.

○2nd STEP : Why do you think so?

Because phones are becoming part of our lives

We have no choice but to always use phone

(日本語で要約：ケイタイは私たちの生活の一部になっているので私たちはケイタイを常に使わないと方がない。)

○3rd STEP : Why is the reason of 2nd STEP important for you?

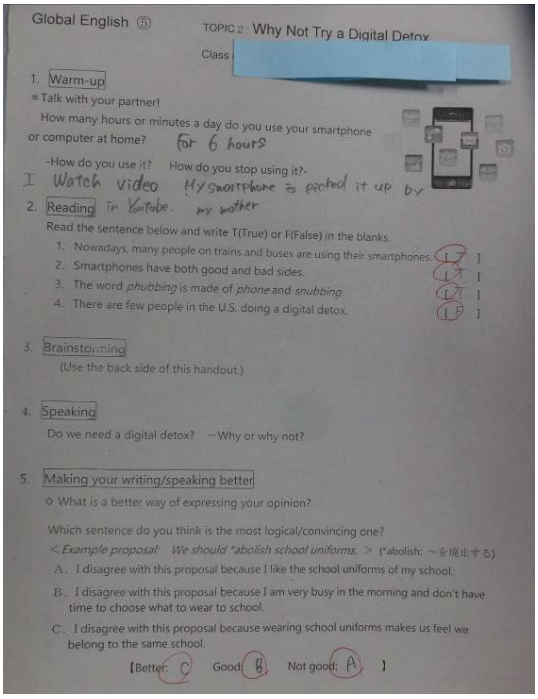
What kind of advantage do you get through the reason of 2nd STEP?

How does the reason of 2nd STEP have good effect on you?

We check our schedule on our phones. Also, phones teach us alarm.

(日本語で要約：私たちは私たちのスケジュールをケイタイで確認する ケイタイは 〃 に警報を伝えてくれる。)

説得力のある意見発信のための３つのステップ



Global English ⑤ TOPIC 2: Why Not Try a Digital Detox

Class

1. Warm-up

＊Talk with your partner!

How many hours or minutes a day do you use your smartphone or computer at home? for 6 hours

-How do you use it? How do you stop using it?-

I Watch video Myswartphone is picked it up by my mother in Youtube.

2. Reading

Read the sentence below and write T(True) or F(False) in the blanks.

1. Nowadays, many people on trains and buses are using their smartphones. [T]
2. Smartphones have both good and bad sides. [T]
3. The word *phubbing* is made of *phone* and *snubbing*. [T]
4. There are few people in the U.S. doing a digital detox. [F]

3. Brainstorming

(Use the back side of this handout.)

4. Speaking

Do we need a digital detox? —Why or why not?

5. Making your writing/speaking better

◇ What is a better way of expressing your opinion?

Which sentence do you think is the most logical/convincing one?

＜*Example proposal: We should *abolish school uniforms.*＞ (*abolish: ～を廃止する)

A. I disagree with this proposal because I like the school uniforms of my school.

B. I disagree with this proposal because I am very busy in the morning and don't have time to choose what to wear to school.

C. I disagree with this proposal because wearing school uniforms makes us feel we belong to the same school.

【Better: C Good: B Not good: A 】

デジタルデトックスのワークシート

＜成果と課題＞

～成果～

今年度も１クラスを２分割し、１クラス約２０人をJTE１名、ALT１名の計２名で担当した。クラスの規模を縮小することで、生徒が英語を発しやすい雰囲気を作り、発言の機会を増やすことができた。また、教員側も一人一人の生徒に目が行き届きやすくなり、より細かい助言・指導をすることができた。

今年度設定した目的の達成に向けて、授業の形式は、まず指定された社会問題について知識を深め、それに対する自分の意見を考えて表現し、さらにそれをペア・クラスで共有して深めることとした。背景知識を増やす手立てとして、様々な社会問題を取り上げた英文を収録しているテキストを持たせ、その英文を読ませた。意見文ではなく問題の概要について書かれた英文を読ませることで、既存の意見に傾倒せず、自分自身の考えをまとめることができたようである。テーマの中でも、「デジタルデトックスは必要か否か」が生徒にとって最も身近で、興味をもったようだった。さらに、ブレインストーミングの手法を用いて、様々な視点からできる限り多くの発想を出すよう指導し、それをクラス全体で共有したことで、問題を客観的に捉えさせることができたと考える。ライティングによる意見の表現では、当初生徒たちは自分の意見を明確にはしていたものの、それを裏付ける根拠が感覚的であったり、不十分であったりすることが散見された。そこで、意見を述べるために効果的な文章の構成を再確認し、それに従って書くよう指導した。これによって、生徒達は、何が自分の意見で、それを裏付けるためにどのような例・根拠が必要かを考えるようになり、より説得力のある文章を書くことのきっかけになったようである。自分の意見をペア・クラスで共有する際に、初めはためらう生徒が多かったが、クラスでどのような意見も尊重し、肯定的なフィードバックを返すことで、積極的に意見を伝えようとする生徒が増えたように思われる。

また、毎授業の冒頭には１５分程度のスピーキング活動を行った。反復的な練習を通して着実にスピーキング力をつけさせることを目的としており、趣味について話をするなどの身近な内容に関する会話に始まり、イラストの描写、相手と交渉して折り合いをつけるなど、少しずつ難易度を上げながら活動を継続することで力をつけつつある。

３学期は毎年恒例のスピーチコンテストに向けて、スピーチの作成・発表に取り組んだ。テーマはコミュニケーション英語Ⅰの授業で扱ったレッスンから選ぶこととしたため、生徒にとっては取り組みやすい活動のようであった。原稿の組み立て方や、評価規準について事前に明らかにしておくことで、生徒達は概ね順序立てて、自分の意見を実体験にもとづき論理的に述べることができていた。クラス予選では、緊張しながらも多くの生徒が聞き手を意識し、アイコンタクトをしたりジェスチャーを交えたりしながら工夫して話すことができていた。各クラス代表による本選では、学年全員の前でスピーチを披露し、それぞれ練習を重ね、本番に臨むことができていた。聴衆の生徒にとっても良い刺激となったようである。

～課題～

今年度はテキストを使用し、テーマに関連する英文を読んで背景知識をつけさせたが、やや難解なテーマも含まれており、自分の意見を論じるには情報量が不足していることもあった。テキストで扱われているテーマは多岐にわたる国際的な問題が多く、グローバルな視点を培うことができたという点では有効であったが、議論を活発化させるためには生徒にとって身近な問題を扱うことも効果的であろう。また、教師対生徒、生徒同士のやり取りを生み出しやすいクラス規模・環境でありながら、生徒個人が読んだり書いたりする時間が比較的長かった。グローバル英語の授業形態の特質をさらに活かした授業の展開を

今後も検討し続けたい。

ペアで意見を共有する際に、ただ自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりするのみで終わってしまうことが多かった。やり取りを継続させるために役立つ表現をいくつか提示していたが、あまり有効に使用できていなかったように思われる。相手の考えを理解したうえで、それに対する自分の考えを返し、ディスカッションを展開させられるよう、生徒同士のやりとりを活発化させる仕組みが必要であると考えた。また、ペアだけでなく複数名のグループで議論する機会を取り入れられなかったことが課題である。

スピーチ活動において、原稿の作成に時間を要し、話し方の指導に十分時間を確保できなかった。特に、今年度はスピーチの中で重要なキーワードを複数選ばせ、それらを黒板に掲示してスピーチをさせたが、効果的に使用できている者が少なかった。資料やジェスチャー等を使用した、人前での効果的な話し方も指導することが今後の課題である。

＜アンケート結果＞

～実施方法と結果～

令和２年２月上旬にかけて９クラス全員を対象にアンケートを実施し、以下の１５項目に対する１年間の自己評価について「１：まったく思わない、２：あまり思わない、３：まあまあ思う、 ４：とても思う」の４つの選択肢を選ばせた。

① ペアワークに積極的に参加した。
② ディスカッションにおいて、他のメンバーと協力して自分の役割を果たそうとした。
③ ディスカッションにおいて、資料などをもとに客観的に考え、表現しようとした。
④ ディスカッションにおいて、根拠に基づき論理的に意見を述べようとした。
⑤ ディスカッションを通じて、多面的な角度から物事を理解し、発言する姿勢が身についた。(You said that…等の表現を使えた。)
⑥ 自分に身近な問題や、社会全体の問題に興味・関心を持つようになった。
⑦ ALT や JTE の話す英語の内容を、積極的に聞き取ろうとするようになった。
⑧ 自分の感情、考えや意見を英語で相手に伝えようとする気持ちが強まった。
⑨ 相手の英語を聞き取り、理解しようとする姿勢が身についた。
⑩ 英語を使ってコミュニケーションを取ることの大切さ・楽しさ・難しさを知ることができた。
⑪ 英語を使って自分を表現し､外国の人とコミュニケーションが取れるようになりたいという気持ちが強くなった。
⑫ 将来は海外に留学したり、海外で活躍したりしたいという気持ちが強くなった。
⑬ クラスを分割する授業形式だったので、発言することに対する抵抗感が少なかった。
⑭ Speaking Gym の活動を通じて、間違いを恐れず英語を使う気持ちが高まった。
⑮ スピーチの原稿づくり及び発表準備を通じて、既習の内容と自己の経験を結びつけ、自己表現をする気持ちが強くなった。

① ～⑮までの結果は以下の通りである。(数値は％)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
1	3	1	3	3	4	4	3	4	3	4	5	18	14	5	3
2	9	15	20	20	35	39	10	14	5	7	14	31	36	35	24
3	51	56	58	57	47	42	36	47	43	34	32	28	33	45	46
4	38	27	20	20	14	15	50	34	48	55	49	23	17	14	27

＜スピーチ発表の授業＞